

# 制度・施設・国それぞれの特性を考える

～ より良い協働を目指して ～

---

社会福祉法人 芳香会  
外国人受入担当 富張浩俊  
(青嵐荘特別養護老人ホーム勤務)

# 社会福祉法人 芳香会について

---

所 在 : 茨城県古河市上大野698

開 所 : 1970年12月

理事長 : 宇留野 光子

職員数 : 500名

施 設 : 高齢事業 入所型3施設 在宅事業

障害事業 入所型4施設 在宅事業

保育事業 2保育園

その他 茨城県地域生活定着支援センター・芳香会研究所・託児所 等々

URL ⇒ [社会福祉法人芳香会 | 人にやさしく地球にやさしく \(houkoukai.or.jp\)](http://houkoukai.or.jp)

# 現在の外国人材採用状況（事業種別）

芳香会では2010年度からEPA制度等を利用し積極的に外国人材との協働を具現化しています

施設種別	特定活動 (介護福祉士)	特定活動 (EPA)	技能実習	留学	介護	定住者	配偶者	合計	国
特別養護老人ホーム		4名	2名 (2名)		2名	1名	1名	10名 (2名)	PH-VN-ID
身体障害者施設1			(3名)	2名	4名			6名 (3名)	PH-ID
老人保健施設	2名	2名		2名	1名			7名	PH-VN-NP
身体障害者施設2		3名	(2名)		1名			4名 (2名)	PH-ID
身体障害児施設		2名 (看護師)	(5名)					2名 (5名)	PH-ID
養護老人ホーム					※1名			1名	ID
知的障害者施設				希望					ID
合計	2名	11名	2名 (12名)	4名	9名	1名	1名	30名 (12名)	

○本年度介護福祉士国家試験3名受験    ○青文字は予定    ○赤文字は実績あり  
○※は3月より就労予定    ○その他、韓国やペルー等の方を採用したことあり

PH	VN	ID	NP	合計
10名	3名	14名 (12名)	2名	30名 (12名)

# 法人の目的

法人の目的や方針は明確でしょうか？

法人には方針があります。

- 1 世界貢献
- 2 地域貢献
- 3 福祉・事業の拡大
- 4 日本の魅力発信
- 5 人材確保
- 6 知識・技術
- 7 職員の意識変化
- 8 日本語の習得 等々



法人には選択肢があります。

選択1

- 1 どの制度を使うか
- 2 どの国を選択するか

選択2（個人）

- 1 地域性や性格、目標
- 2 性別や学歴（医療系）

等々

# 制度の選択からも

制度	目的	可能国	その他
EPA	国と国との協定	3カ国	国家試験
技能実習(介護)	技術移転	14カ国	3年or5年
特定技能(介護)	就労	8カ国	3年or5年
留学	学業	—	学業優先 就労制限
介護	専門職	—	資格取得
インターン	職場体験	—	—
配偶者・定住者		—	配)就労制限

出会うや繋がり等により違った道も出来る場合がある。

多くのチャンネルの確保目的としても実施もしている

# 芳香会の目的

---

芳香会の合言葉 「お互いの国をお互いに好きになる」

大きな目標は世界貢献

【法人として】 福祉の拡大 雇用の拡大 地域への貢献

海外でも芳香会で培った知識や技術が使われる。地域にも外国の住民が増える

【人として】 仲良くなる お互いの国を知る（興味を持つ） 友好関係

これも立派な世界貢献。平和な世界。戦争のない世界の実現。生活が豊かになる

【個人として】 価値観の拡大と自己実現の関係 母国への愛国心（関心）

自身の存在価値を上げることも貢献に繋がる。地域の変化に対応できる住民

# 芳香会の制度の選択

## →開始当初 (2010) はEPAのみだったことからこの制度を利用

目的は世界貢献。導入当初は採用も切迫している状況ではなく、就労目的でないと周知し開始。世界という価値観を学ぶこと、福祉の拡大として知識や技術を世界に知ってもらう目的として導入。

## →EPAと他制度の拡大 ※高齢者施設と障害者施設の違いを知るきっかけとなった

次に実施が留学生 (2016) 。障害者施設での課題や法人内の教育制度を見直し実施できる制度拡大へチャレンジ。

## →技能実習生 (2018) へのチャレンジ

EPAのマッチングが非常に厳しくなったことで採用に繋がらない。法人の方針の知識と技術の拡大と制度目的が一致と考え、実施できる制度として開始。

## →介護 (2019) 国家試験に合格した方や留学の学校終了の在留許可変更により実施。他法人からの転職。

## →配偶者 (2020) や

定住者 (2008) 国家試験に合格した方の配偶者が施設で就労を開始。

# 外国人材採用から学ぶ（事業種別）

事業所別により日本語や知識・技術の習得の違いがあるのかを考えて配置する

赤文字退職者 緑文字は合格者で就労中

施設種別	特定活動 (介護福祉士)	特定活動 (EPA)	技能実習	留学	介護	定住者	配偶者	合計	国
特別養護老人ホーム	1	1 4名	2名 (2名)		2名	1名	1名	10名 (2名)	PH-VN-ID
身体障害者施設1		2 (3名)		2名	1 4名			6名 (3名)	PH-ID
老人保健施設	1 2名	2名		2名	1名			7名	PH-VN-NP
身体障害者施設2	2	1 3名	(2名)		1名			4名 (2名)	PH-ID
身体障害児施設		2名 (看護師)	(5名)					2名 (5名)	PH-ID
養護老人ホーム					※1名			1名	ID
知的障害者施設				希望					ID
合計	2名	11名	2名 (12名)	4名	9名	1名	1名	30名 (12名)	

【特養】 4名中3名が1回目の試験で合格 (75%) 2名は「介護」へ変更 (配偶者が働くのに特定活動では仕事を探しにくいという理由)

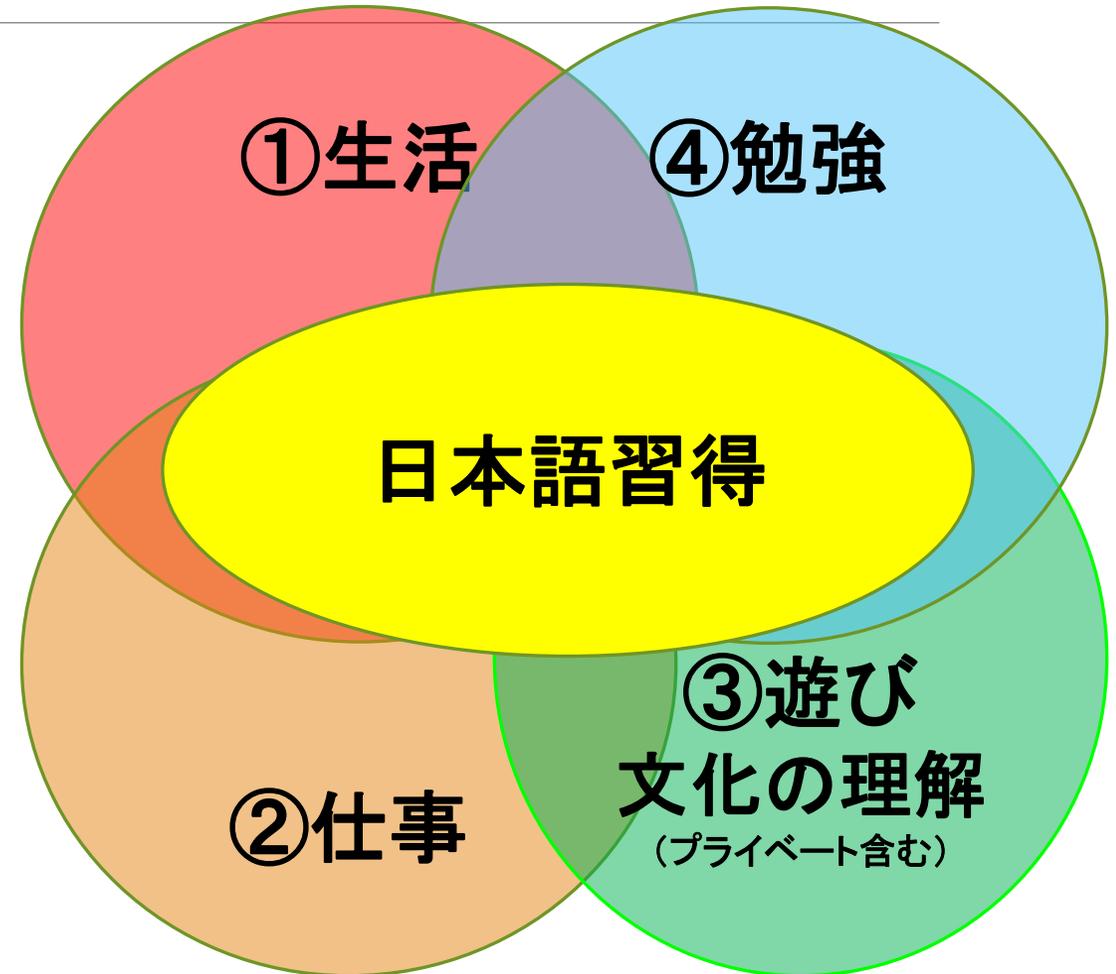
【障害1】 2名が2回受けて不合格 (0%) 留学4名1回目合格 (100%) 【老健】 3名が1回目で合格 (100%) 【障害2】 2名が2回目で合格 (100%)

# 日本語習得について

言語習得はすべての時間から使用することで学ぶことができる。  
日本語の授業をすることは基本を学ぶことであり、基礎知識の上に  
日頃の訓練が必要。インプットとアウトプットを繰り返すことの出来る  
環境で習得を意識的に行う。

※当法人での受け入れてきた経験からの考え方。

もちろん個人により違いはあるが環境をとしての取組。

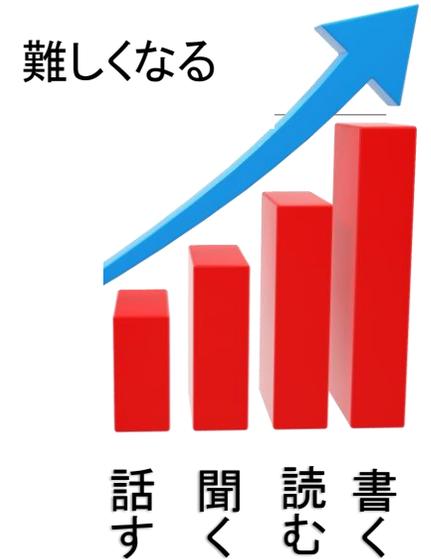


# 高齢と障害施設の日本語の習得について

※日本語教師が施設で1ヶ月アルバイト実施し調査

日本語の「話す」「聞く」「読む」「書く」4技能（日本語取得の理解が必要）

※日本人職員も業務内の会話やJLPT等で、日本語レベルがどれくらいなのか判断できるようになること



「話す」や「聞く」が少し出来ると業務もなんとなく出来てしまう

→導入当初は業務が出来るようになってくると日本語が出来るようになったと勘違いをしていた

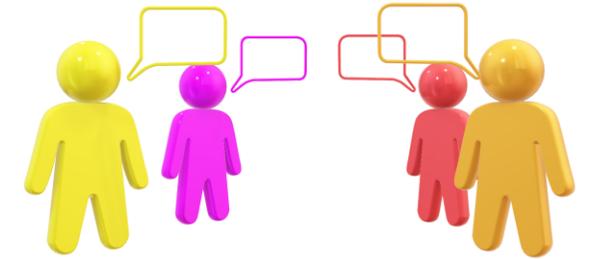
高齢施設と障害者施設でも違いがある

→高齢施設の方が会話キャッチボールが成立する場面が多い。

障害者施設では声は掛けるがリターンは一定が多い。相手の言葉に反応し自分の言葉を選択し瞬時に使い分ける言語習得の機会が少ないかもしれない。小さなことかも知れないが毎日繰り返すことで言葉の習得に大きく関わるものとも理解している。

# 高齢と障害施設の専門用語の習得について

現場で出てくる語彙は、国家試験の勉強をしてもイメージしやすく  
インプット、アウトプットがしやすい。



## 障害施設については高齢施設より国家試験に出てくる語彙が少ないかもしれない

→施設種別により国家試験（介福）に出てくる語彙量は確かに変わるものと理解している。

語彙のインプットの量が違うということは、テキストから学ぶことが多くなる。イメージの中から理解するということではなく、文章から理解するということには時間がかかるのかもしれない。

## 母国に障害者施設という認識がない

→自国に障害者施設の認識が少なく採用に繋がりにくい。勉強と仕事は別で、働く場から学ぶという考えも意識しづらいのかもしれない。

# 国家試験対策について

---

※勿論個人差がある

前頁のような経験から…

国や施設が違ってもどのように対応するかを理解し実行できれば習得は出来る考えています

①障害者施設で会話が少ないことを理解し、職員同士でも会話をする機会を意識的に作る環境

例) 申し送りをさせる、報告機会を作る、記録を書く、音読をする 等々を繰り返す

日本語のレベルを上げることの必要を職員が理解し、日本語習得状況を把握する

※一時は法人での学習から外部での学習（留学）に切替として対応した

②10年以上が経過し制度の進化したことにより、着任時の日本語能力や情報量も格段に上がっている

③テキストやEラーニング等の進化により学習スピードも格段に変わった

④駄目だと「日本語能力」を否定することなく、人として理解し繰り返し行える環境や職員を作る

⑤施設の職員も専門用語などを積極的に教えて行くことも必要

# 芳香会の国の選択

---

## →フィリピン (2010) からの導入開始

地域に居住する外国人の中でフィリピンの方が割合が一番高く、地域で生活する為のコミュニティーとして成立しやすいかもしれない。言語も英語圏による会話ができる可能性が高いことから選択。

## →ベトナム (2014) へのチャレンジ

前評判の良い手先が器用や勤勉ともあり導入を開始。継続的に採用（EPA）をしようとして実施してきたが採用に繋がらず。ベトナムの方が賃金や都市部への集中が見られるようになり他国の採用拡大へとなった。

## →インドネシア (2016) へのチャレンジ

当初は宗教的価値観により採用が難しいと考えていたが、留学生の採用がインドネシアともあり急速に採用へ繋がっていった。人口の多さや親日的な国の交流関係からも継続が一番の安定と考えていたこともあり。

## →ネパール (2020) へのチャレンジ

日本語学校等からの紹介もあり。留学生としての受け入れ実施。

# 国について

---

国別の特性はもちろんある。個人の能力や性格等にもよる。

## ①国の状況等により対応する

コロナにより入国が不可となるように、国と国の関係により制度が突然廃止になる可能性もある。また、国の状況や人口数、言語や、食、親日的な文化など勉強することで、理解し採用国とすることが必要。

当法人は就労目的で多くの外国人を採用するということではなく、少しずつしっかりと教育をしながら知識を習得する目的。もちろん日本を好きになることが大切でそのためにも安心して生活できるように配慮をする。しっかりと地域で生活することで地域や職場の活性化につながると信じ継続した採用がしたいと考えている。

法人方針により：目的を柱に制度や国の採用チャンネルを多用し継続して活動が出来るような状態にしておくこと

フィリピン    ベトナム    インドネシア    ネパール

# インドネシア国について

インドネシア よく言われる問題 → 宗教（イスラム教）

## ①1日5回のお祈り（朝 正午 夕方 夜 就寝前） 男性は金曜日の正午にモスクに集まってお祈り

勤務時間内には2回程度お祈りの場合がある。正午のお祈りは少々長く（30分程度）自身の昼休憩に行くようにしている。夕方のお祈りは5分程度なのでトイレに行くような気持ちで配慮として実施している。お祈りの時間が少々ずれる時もあるが本人たちも工作中ということを理解してくれている。

施設）待機室や更衣室などをお祈りの場所として提供。手や足をあらうため水道を使用。

## ②女性のヒジャブー 女性は髪や肌を露出してはいけない

→ ヒジャブーの使用、常に長袖を許可 → 利用者・ご家族からのクレームはない

ヒジャブーを付けないとすることは信仰の中ではとても大変な変更のようです。施設方針でさせないということもできますが、精神的な影響は大きいと思います。また、お祈りをさせないことも可能のようですが継続したサイクルとしての採用する施設に選択されなくなるほど情報は早く拡散されます。

# インドネシア国について

---

## ③ラマダン（断食）毎年変わる1ヶ月期間の断食

施設）施設からは水分は必ず取るようにしてほしいと依頼（熱中症や脳梗塞などの危険性から）。

飲む飲まないは本人意思で強制はしていない。勤務については通常通りに実施。入浴等体調を確認する等の配慮として対応。

本人）気にされることに違和感を感じることもあると伺ったこともあった。小さな時からの習慣なので当たり前のことという感覚。日本の暑さは母国とは違うことも理解している。

## ④食事（豚・酒など）ハラール食

食事の際、豚や酒は口にすることが出来ないので食事会の準備などは注意。酒の入ったみりんや、動物性油の使用など細かな注意。買い物にスーパーに行っても本人たちは時間をかけて商品ラベルを確認している。最近では対応してくれる店や、海外の調味料などを置くスーパーが多くなってきた。

# インドネシア国について

---

## ⑤宗教観

日本人の感覚として理解することが難しいこともあるが、受け入れることは出来るのではないか。

人を大切にすることや、目上の人を敬うこと、困っている人を助けることなど宗教的な考えもあり、個人ではなくみんなから優しさを感じることが出来る。利用者に対する対応は人当たりがよく、笑顔で話をする姿がよくみられる。

ラマダンも苦を共有し人への感謝や優しさを再認識する意味もあるようで教育ではない宗教観から対応が見られるのではないかと感じている。死への価値観も全く違く、死への恐怖ではなく死の受け入れという新たな考え方を教えて頂いた。

その他にも、注意しなければならないことなどもある。頭をなでてはいけない。出来るだけ右手を使用、時間の管理の仕方等がある。お互いを知ることで新しい価値観が広がる。

---

【タガログ語】	<i>Magandang hapon</i>	/ (マガンダン ハーポン)
	<i>Salamat Po</i>	/ (サラマツポ)
【ベトナム語】	<i>Xin chao</i>	/ (シンチャオ)
	<i>Cám ơn bạn</i>	/ (カムオンバン)
【インドネシア語】	<i>Selamat siang</i>	/ (スラマツ シアン)
	<i>Terima kasih</i>	/ (テレマカシ)
【ネパール語】	<i>Namaste</i>	/ (ナマステ)
	<i>Dhannebaad</i>	/ (ダンネバド)

※職員には初めて会うときは相手の国の言葉で挨拶が出来るようにと伝えています。

本日、皆様方との出会いも奇跡的な出会いであり「ご縁」であります。今後とも情報の共有、ご指導をお願いいたします。皆様方のご協力を頂きながら、小さな活動が世界貢献となるように取り組んでまいります。

ご清聴ありがとうございました